

分水
(燕市)

定住の地

見渡す限り広がる新潟平野を洪水から守り、人々に恵みをもたらす「大河津分水」で有名なこの町は、良寛が修行し、その芸術(詩歌・書等)が円熟を迎えた地でもある。



厳しい修行と諸国行脚の末、導かれるように国上山の中腹にある五合庵に移り住んだ良寛。森の中にある極めて簡素な草庵で二十年ほどの時を過ごした後、文化十三年(八六)良寛五十九歳のとき、乙子神社草庵に移り住んだ。理由は五合庵への山坂の上り下りが老身にこたえるようになったためと言われている。

托鉢修行で生活の糧を得て、自然や子供たちを愛し、人の心に寄り添う慎ましやかな暮らしの中で磨かれた感性は数々の詩歌や書を生み、その芸術性はこの時期、円熟期を迎える。限りなくおろからで深い人間愛に溢れる良寛芸術。その神髄は数々の詩歌や書に見ることができる。

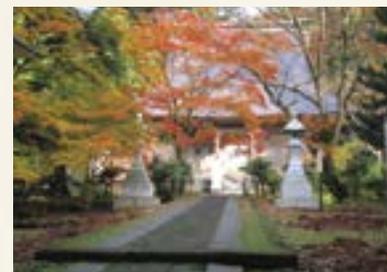
38 五合庵

詩的風景が広がる山の中に静寂に包まれ佇む庵。良寛が40歳頃から定住し、20年ほどをここで過ごした。良寛句碑や萬元上人の墓がある。

50 燕市分水良寛史料館

五合庵、乙子神社草庵時代の遺墨や遺品をはじめ、様々な関連資料を展示。庭に良寛の像や歌碑などもある。

開 9:00~16:30 休 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
料 大人300円、学生200円、小中学生100円 ※団体割引あり
電 0256-97-2428 註 あり



37 国上寺

開山1300年の越後最古の真言宗の名刹。酒吞童子や源義経・弁慶伝説も残る。良寛ゆかりの五合庵はこの寺の敷地内にある。良寛歌碑と良寛像がある。



41 朝日山展望台と千眼堂吊り橋

展望台から大河津分水と新潟平野、遠くは越後三山を見渡すことができる。公園の内外に良寛歌碑群と良寛像がある。朝日山展望台と五合庵を結ぶ千眼堂吊り橋もある。



39 本覚院と月見坂

本覚院は良寛が五合庵に定住する前、仮住まいした真言宗の寺である。良寛の詩歌碑がある。



40 乙子神社草庵

良寛59歳の時、五合庵から移り住んだ。ここでの10年が良寛芸術の円熟期とされる。最古の良寛の詩歌碑がある。



49 大蓮寺

良寛が托鉢の行き帰りによく立ち寄って親しくしていた浄土真宗の寺。住職の奥様から贈られたきれいな毬3箇を良寛は大切に使用した。良寛詩碑がある。



63 願王閣

大庄屋富取家が建立し、寄進した。良寛の弟子遍澄が4代目の住職を務めた。遍澄の歌碑がある。



52 中村家

地蔵堂の町年寄で酒造業を営む。良寛の父以南の実家新木家と親戚。良寛が三峰館(大森子陽塾)に通っていた時、寄宿していた。個人宅。



54 心月輪の碑

ゆかりの解良家で良寛が鍋ぶたに書いた「心月輪」の書は、良寛の書の中でも美しくのびのびとした書として評価が高い。



43 夕ぐれの間

ことに夕映えが美しいことから名づけられた。托鉢を終えた良寛が夕暮れにこの地で一息ついて五合庵への山道を登って行った。萬元上人の歌碑がある。



46 原田鶴斎旧宅跡

原田鶴斎、正貞親子とも医を業としながら詩文の才があり、良寛と親交があった。良寛歌碑がある。



47 解良家

村上藩の庄屋役を務めた解良叔間は良寛と親交があった。良寛庇護者の一人。良寛はたびたび解良家を訪問した。解良栄重は「良寛禪師奇話」を書き残した。門前に良寛の句碑がある。個人宅。



48 観照寺

良寛が53歳の頃に一時仮住まいした真言宗の寺。現在は寺の建物はなく、解良栄重ほか解良一門の墓所がある。



45 阿部家

渡部の庄屋で酒造業も営む。阿部定珍と酒を酌み交わしながら歌を詠み合うなど親交があった。良寛庇護者の一人。門前に良寛の詩碑がある。個人宅。

44 菅原神社

阿部家の近くの小高い岡の上にある神社。良寛もよく参拝した。良寛の歌碑がある。

51 本町通り歌碑群

主に良寛の歌集「ふるさと」から抜粋した歌の歌碑が地蔵堂本町の商店街に多数ある。

42 道の駅 国上

山側の公園に良寛像がある。ドライブの疲れを癒やす無料休憩所や源泉100%の足湯「酒吞童子の湯」(無料)、食事処や売店、地元野菜の直売所など家族で楽しめる。日帰り温泉施設「てまりの湯」も併設。